

2021年6月23日

各位

会社名 株式会社シャノン  
代表者名 代表取締役社長 中村 健一郎  
(コード番号:3976 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 経営管理担当 友清 学  
(電話番号：03-6743-1551)

2021年10月期 第2四半期決算に関連した質問へのご回答

Q1	EM売上は上期が順調なように見えますが、下期の計画を教えてください。
A1	EM売上はイベント開催時期に季節性があること、また、コロナ禍においてイベント開催形態（リアル or オンライン/バーチャル）や開催自体に不確定要素があるため、2021年10月期の計画においては、上期に偏重した計画をしております。 下半期予算については、2021年10月期第2四半期決算補足説明資料のP33（EM売上の直近推移）に記載の数字を計画値としており、上半期に偏重した予算を策定しております。
Q2	第2四半期でも利益に関しては既に通期業績予想を達成していましたが、上方修正の予定はありますか？
A2	フェアディスクロージャーの観点から、開示情報以上の事をご回答致しかねますことご理解いただけますと幸いです。 なお、適時開示制度に則り、公表している業績予想に修正が必要となった際には、適時に開示をする方針でございます。
Q3	オリンピック関連の受注はありますか？ 仮にオリンピックが中止になった場合には、どの程度の影響が出ますか？
A3	東京オリンピック、パラリンピックに関連した案件の受注はございます。 案件の詳細につきましては開示を致しかねますが、仮にオリンピック、パラリンピックが中止になった際にも、受注済みの案件については、少なくとも、事前のシステム構築等のサービス提供済みの部分については、精算はされる予定でございます。

Q4	<b>MA サブスクリプションの解約が増えているように見えますが要因は何ですか？</b>
A4	MA-サブスクリプション解約率について、当社では月平均1%未満を目標にしております。直近の解約率が増加傾向にある要因は2020年10月期～2021年10月期上期にかけて、特定の大型案件の解約が段階的に発生したためですが（部分的に解約が進み、2021年10月期2Qですべて解約）、全体としては新規案件の獲得も順調に進み、大型解約のインパクトをしっかりと吸収することが出来ております。

Q5	<b>MA サービスの更新率を高めるための工夫はありますか？</b>
A5	弊社の強みでもありますが、お客様に対して、無償で提供しているカスタマーサポートやユーザートレーニング、カスタマーサクセス部隊による既存顧客のフォローを中心に、有償でのサポートメニュー、伴走支援サービスなども提供しており、お客様がサービスを有効活用し、長期間にわたってサービス利用を継続して頂けることを目指しております。

Q6	<b>2021年4月末に譲受た広告事業の今期への影響は？</b>
A6	2021年4月30日付で事業譲受を完了した広告事業について、今期への売上影響は軽微であります。また、広告事業単体の成長を目指すだけでなく、既存のMA、EMの顧客に対しても広告サービスを展開していくことで、それぞれの事業領域で相乗効果を発揮することが期待できると考えております。

Q7	<b>広告事業は既存事業に対してどのような相乗効果を生むのか？</b>
A7	多くのMAサービスにおける顧客が、マーケティングオートメーションサービスを利用する前工程で広告サービスは利用していること、EMにおいても、イベント開催にあたっての事前集客等で広告サービスのニーズがあることから、それらの既存顧客に対して積極的に広告サービスを展開していくことを想定しております。

Q8	<b>広告事業について、Google や Apple の 3rd party Cookie 廃止による影響はどのように考えていますか？</b>
A8	技術的には従来と変わる部分があるものの大きなマイナス影響はないと判断し、この変化をむしろ機会として捉えております。

Q9	総人件費が増加している要因、総人件費に占める原価の割合が低く見える要因、また、原価率はどの程度が適切と考えているか。
A9	<p>総人件費については、中途・新卒採用の活動強化により増加しております。組織の安定的な拡大のために、ここ数年は新卒を毎年10名前後採用してまいりましたが、教育体制の構築を背景に、一段の成長を目指して、21年4月入社の新卒については28名採用いたしました。</p> <p>総人件費については、案件活動に従事した場合には原価、それ以外は販売管理費に割り振っておりますが、全ての職種が原価活動を行うわけではないこと、宮崎支社の組織拡大、「シンプル導入パッケージ」による導入工数の効率化、リアルイベントからバーチャルイベントへの需要シフト等を受けて、足元では原価率が減少傾向になっていることもあり、総人件費に占める原価の割合は2021年10月期第2四半期決算補足説明資料P30（総人件費の推移）の通りとなっております。</p>

Q10	採用費が急激に増加したように見えるが、その理由はなにか？ また、特に採用を強化したポジションはどこか？
A10	<p>総人件費については、中途・新卒採用の活動強化により増加しております。組織の安定的な拡大のために、前述の通りここ数年は新卒を毎年10名前後の採用でしたが、21年4月入社の新卒については28名採用しております。</p> <p>また、採用を強化したポジションについては、MAの営業戦略の拡大（新規、既存共に）、それによる導入サービスやカスタマーサポートの拡充が主になります。あわせて、直近ではバーチャルイベントの子会社であるジクウにおける開発エンジニア等の採用も積極的に行ってきました。</p>

- 本発表において提供される情報は、いわゆる「見通し情報 (forward-looking- statements)」を含みます。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社または当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。
- これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動等、一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 投資判断を行う際は、必ず弊社が開示している資料をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断において行っていただきますよう、お願い致します。